

# 森林衰退を考える



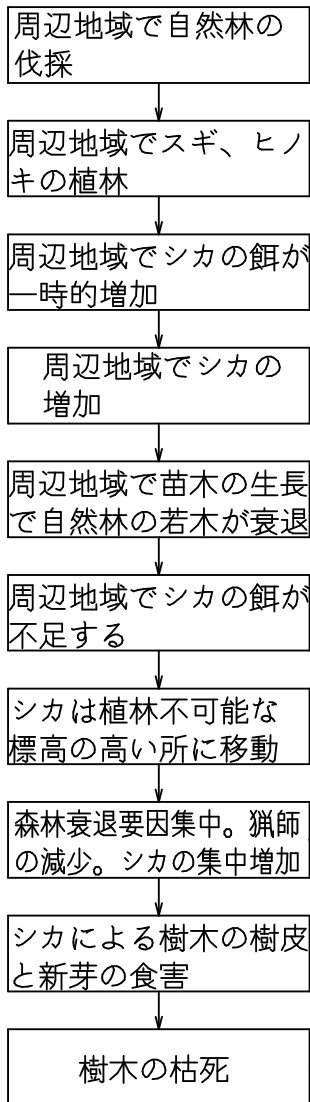
このページでは国内の山での森林植生と生態系の実際の変化について考えます。

## 近畿地方、東海地方のフィールド「大台ヶ原」の場合

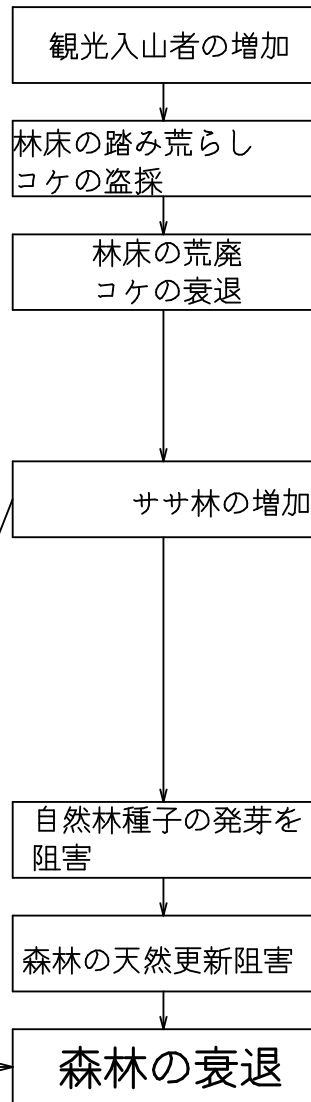
大正時代に、製紙会社により東大台ヶ原の原生林は皆伐された。それが大台ヶ原における大規模自然破壊の始まりと言われる。今は二次林。気をつけてみればその違いはわかるという。西大台ヶ原は1960年ごろまで、うっそうとした森林だった。1965年、私有地西大台ヶ原は伐採許可申請されるが、1972年1月国費買い上げの保護原生林に指定された。それ以後も森林の植生と生態系のバランスが崩れ、大台ヶ原の魅力の低下が続いている。

## 大台ヶ原森林衰退のフローチャート

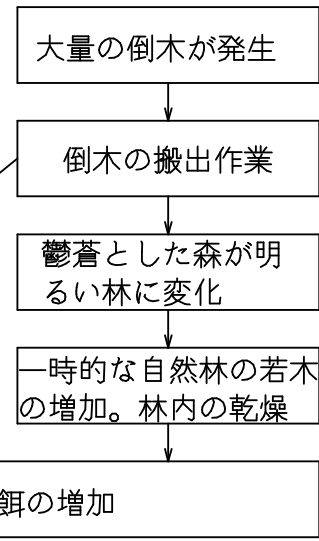
### 1960年代前半、周辺地域の大規模造林



### 1961年大台ヶ原ドライブウエーの開通



### 1959年伊勢湾台風の影響



### シカが増える大きな原因

南アルプスの標高3000m近い高山植物群落で鹿の姿が見られます。鹿が増えた大きな原因は次のとおりです。

1. 天敵のニホンオオカミが明治期に人の手により絶滅
2. ハンターの高齢化と減少
3. 地球温暖化で降雪が減少、積雪に弱いシカの自然淘汰が少なくなった

## 森林衰退の対策案

以上の流れから見ると、複合的な要因の上に人手が加わり、森林が衰退していると判断できる。解決策としては里山の植林を自然林との混交林にして野生動物と共生。生態系のバランスを元に戻すことも考えられる。農産物被害の防止にも役立つが実施には困難が多い。

## 黄砂の飛来と酸性雨について

1. 昔は、「春がすみ」また「早春の風物詩」程度のとらえ方。最近は年中見られるようになりました。温暖化と開発による中国大陸の砂漠化が問題とされています。
2. 屋久島の、直径1mもある針葉樹のモミ、ツガの立ち枯れが目立っています。原因は中国広東省の工業都市化による酸性雨による影響といわれます。